

若者向けの和柄を考える

Modern version and the total pattern for young people

サレジオ工業高等専門学校 デザイン学科 生活文化マネジメント研究室
齊藤優香 指導教員 氏家 和彦

キーワード：現代、若者、和柄

1. 研究目的

日本では古くから和柄と呼ばれる文様が生活の中に深く根付いている。しかし現在では、実際に古来の和柄を用いた物も少なくそんな商品を持ち歩く人が少ないのが現状である。昔ながらの素敵なものがあるのに 10 歳前後の若い人は利用していないことに着目し、日本の昔ながらのデザインの考え方を今後も残していくことができるように若者向けの和柄を提案する。

2. 調査内容

①和柄とは

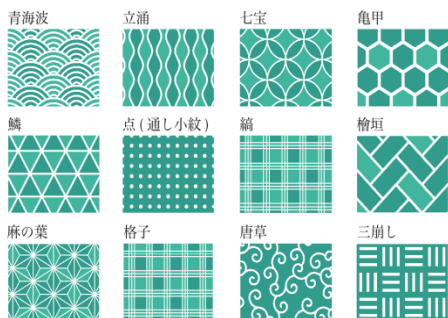
日本で古くから伝わる和柄は平安時代に作られた。広い意味で一般的に使うと「模様」、美術工芸での模様の様式をさすことばは「文様」とされている。ただの柄、表層的なデザインではなく祈りや願いが込められ神様が潜んでいるものである。

②和柄の本来の用途

和柄の本来の用途は、身分の上位・下位を表すことであった。文様の有無やモチーフが植物か動物かで異なってくるという。モチーフは植物より動物の方が上位にあたる。

③代表的な文様(和柄)について

日本だけでも数多くの文様があるが代表的な柄は以下の 12 通りであることがわかった。



④文様(和柄)に対する認識についての調査

大学生を対象に和柄に対する認識についての調査が行われた。調査結果では見たことがあり日本の伝統模様であることを知っている人がほとんどだったものの、和柄を使っているものを持っているが日常では使いづらいと答えた人が少数いた。

これらのことから、若い年代にも使いやすく親しみやすい和柄を提案してみようと考えた。今回は身近である本校の学科別『柄』制作に踏み切った。

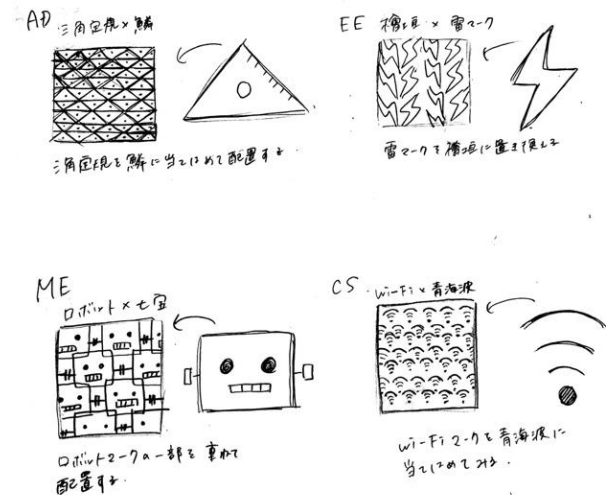
3. コンセプト

本校を利用した理由は受験生と本校学生の年齢がターゲットユーザーにあてはまると考えたためである。特に受験生にとってどんな学校なのか、学科があるのかが学校名からはわかりづらいことから身近な印象を与えるきっかけになると考えた。

ターゲットユーザー：中高生

コンセプト：若い年代にも使いやすく親しみやすい和柄

<サムネイルスケッチ>



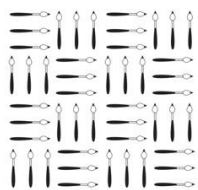
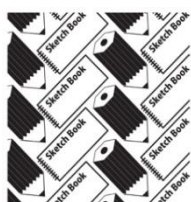
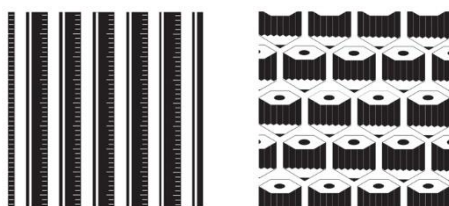
最終提案物は外部の中高生から見て『イメージしやすくわかりやすいデザイン』かつ本校学生から見て『所属の学科に当てはまるもの』になるよう考えている。

4. 検証内容

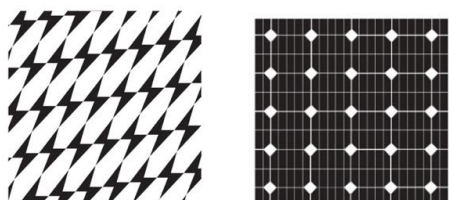
第1回のアンケート調査では本校学生1~5年生を対象に4学科×各4柄の中から所属している学科に一番ふさわしいと思う柄を、所属していない学科には自身のイメージに一番近いものを選んでもらった。アンケートで使用した柄は以下の16柄。どの柄も道具などのぱっと見てわかるような物を用いたデザインにしている。アンケート時、何をモチーフにしたかは記載せず学生のイメージだけで選択してもらった。

第2回アンケートは学園祭とweb上で一般向けに実施予定。内容は最終提案に向けたもの(色展開など)を予定している。

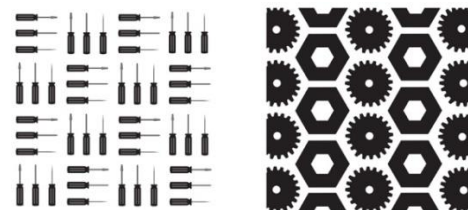
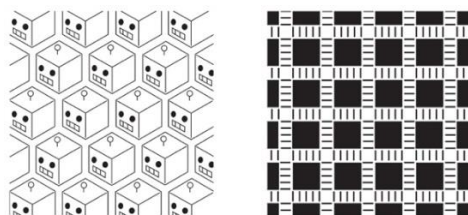
<デザイン科>



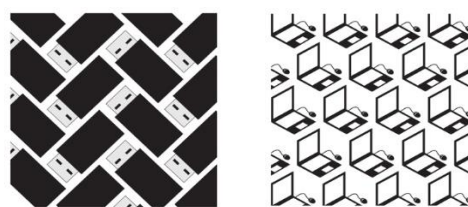
<電気工学科>



<機械電子工学科>



<情報工学科>



5. 参考文献

雲母唐長/ 祈りの陰影 文様について

<https://kirakaracho.jp/about/monyoo/>

Kanolab / 代表的な文様

<http://kano-lab.org/archives/5644>

宮廷装束、文様の歴史 有職織物紹介/ 毎日新聞

<https://mainichi.jp/articles/20181030/ddl/k26/040/400000c>

日本デザイン学会研究発表大会概要集

/ 現代の日本人へ向けた新しい和柄文様の制作

https://doi.org/10.11247/jssd.65.0_56